

最近の管内経済概況

(2024年1月の経済指標を中心として)

～ 緩やかに持ち直している ～

最近の動きをみると、

○生産活動は、一進一退の動きとなっている。

○個人消費は、緩やかに改善している。

○観光は、改善している。

○公共工事は、増加した。

○住宅建設は、弱い動きとなっている。

○民間設備投資は、増加している。

○雇用動向は、弱含んでいる。

○企業倒産は、件数、負債総額とも増加した。

全体として、管内経済は、緩やかに持ち直している。

なお、先行きについては、国際経済の動向等を十分注視する必要がある。

2024年3月18日

照会先：経済産業省 北海道経済産業局
総務企画部 企画調査課

T E L：011-709-2311 内線 2525

E-mail：bzl-hokkaido-kikakuchosa@meti.go.jp

管内経済概況判断の推移

(2024年3月現在)

発表月	2023年10月	11月	12月	2024年1月	2月	3月	前月との判断比較
総括判断	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	
生産活動	弱い動きとなっている	弱い動きとなっている	弱い動きとなっている	弱い動きとなっている	<u>一進一退の動きとなっている</u> (↗)	一進一退の動きとなっている	
個人消費	緩やかに改善している	緩やかに改善している	緩やかに改善している	緩やかに改善している	緩やかに改善している	緩やかに改善している	
観光	改善している	改善している	改善している	改善している	改善している	改善している	
公共工事	<u>増加した</u> (↗)	増加した	増加した	増加した	増加した	増加した	
住宅建設	弱い動きとなっている	弱い動きとなっている	弱い動きとなっている	弱い動きとなっている	弱い動きとなっている	弱い動きとなっている	
民間設備投資	増加している	増加している	増加している	増加している	増加している	増加している	
雇用動向	弱含んでいる	弱含んでいる	弱含んでいる	弱含んでいる	弱含んでいる	弱含んでいる	
企業倒産	件数、負債総額とも増加した	件数は減少、負債総額は増加した	件数、負債総額とも増加した	件数、負債総額とも増加した	件数、負債総額とも増加した	件数、負債総額とも増加した	

注：下線部は、前月から判断を変更した部分。

上方修正 据え置き 下方修正

生産活動 ～ 一進一退の動きとなっている ～

1月の鉱工業生産は、前月比▲7.4%と3か月ぶりに低下した。前年同月比は▲3.7%と2か月ぶりに低下した。低下業種は、化学・石油石炭製品工業など11業種となった。上昇業種は、金属製品工業など2業種となった。

< 1月 >

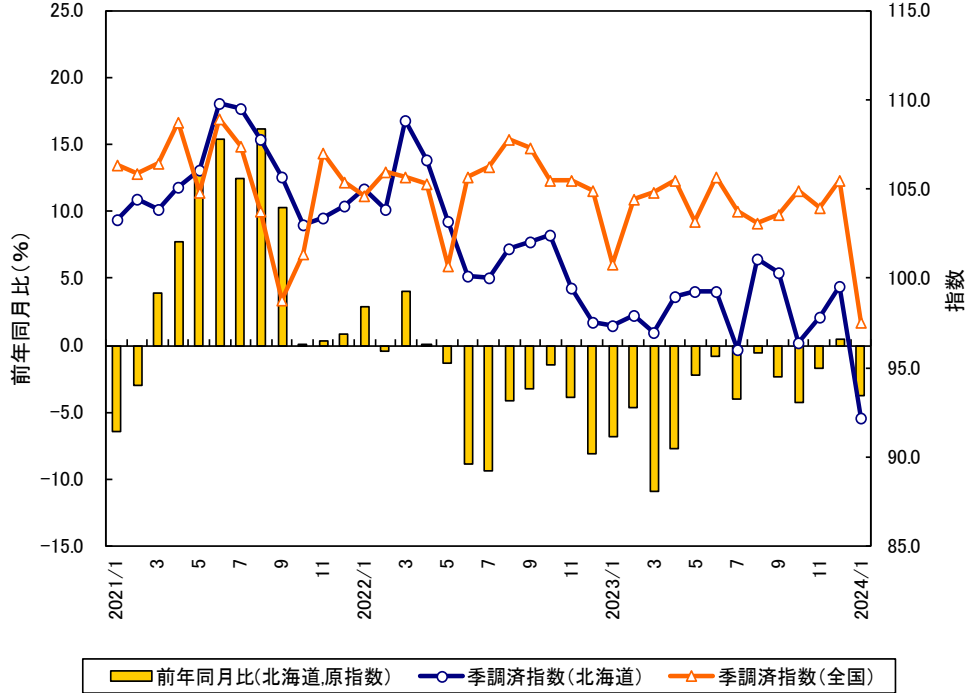
季節調整済指数

北海道（速報） 92.2（前月比▲ 7.4%）

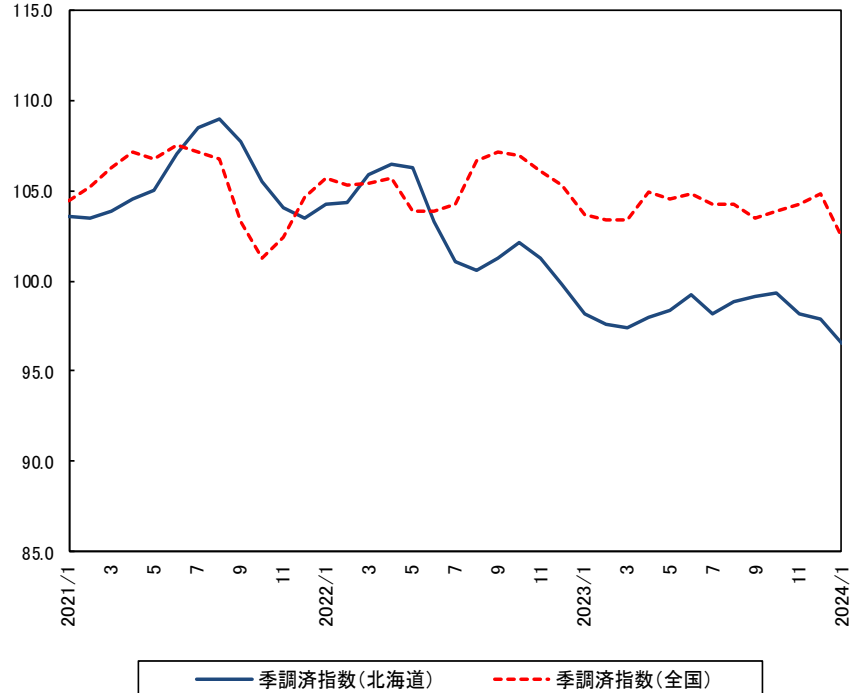
全 国（速報） 97.6（前月比▲ 7.5%）

	業 種	前月比 (%)	前年同 月比(%)	主な品目
低下 11業種	化学・石油石炭製品工業	▲ 23.0	▲ 13.0	化学・石油石炭製品
	輸送機械工業	▲ 19.4	▲ 3.9	自動車部品
	電気機械工業	▲ 9.0	▲ 0.9	電子部品
上昇 2業種	金属製品工業	+ 7.9	▲ 7.5	鉄骨

鉱工業生産指数の推移 [2020年=100.0]



鉱工業生産指数の推移(3か月後方移動平均) [2020年=100.0]



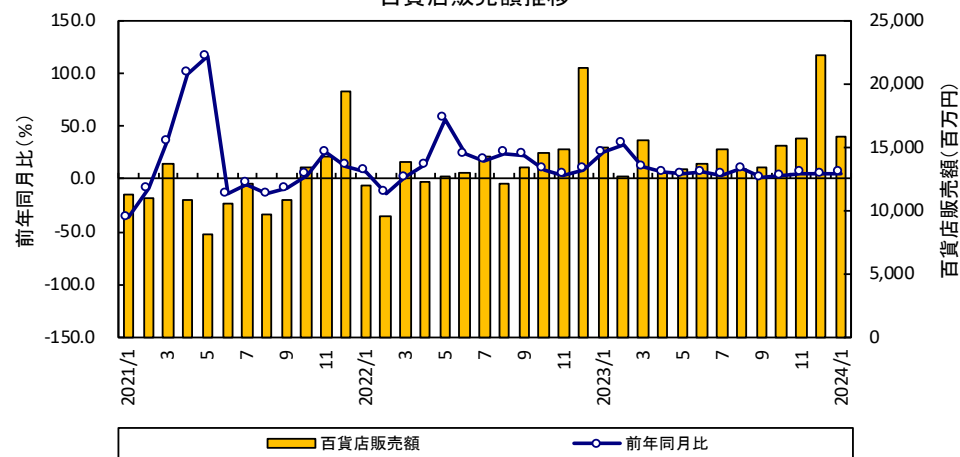
(資料：経済産業省、北海道経済産業局)

個人消費 ～ 緩やかに改善している ～

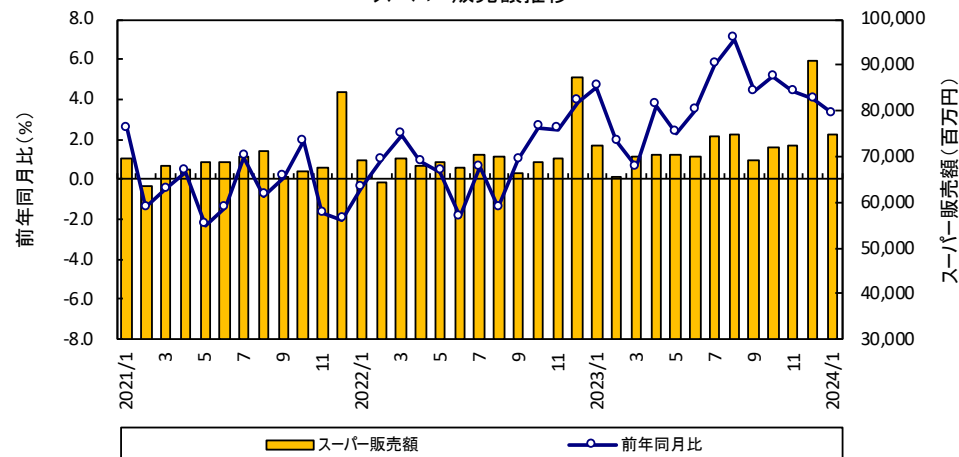
1月の個人消費は、家電大型専門店、ホームセンター、新車販売は前年を下回り、他の4業態は前年を上回った。

- ・百貨店は、衣料品の売上げが好調で、前年同月比+5.9%と23か月連続で前年を上回った。
- ・スーパーは、飲食料品の売上げが増加し、同+3.3%と17か月連続で前年を上回った。
- ・コンビニエンスストアは、同+2.7%と27か月連続で前年を上回った。

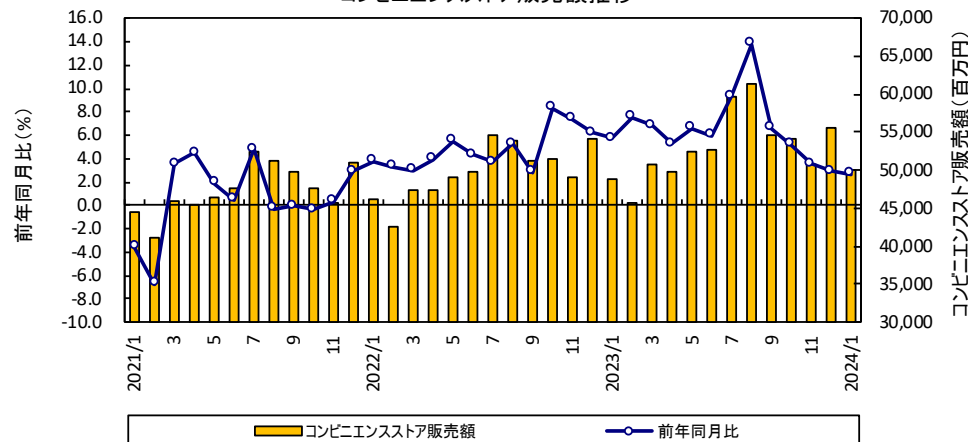
百貨店販売額推移



スーパー販売額推移



コンビニエンスストア販売額推移

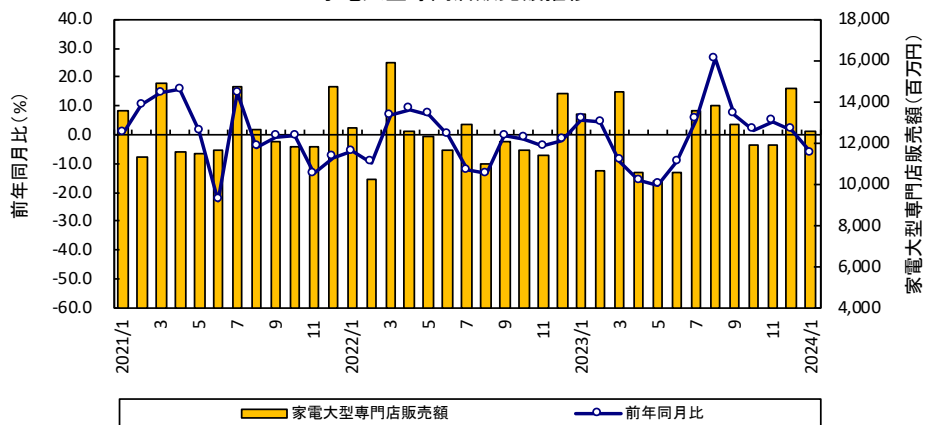


【ヒアリング内容】

- ・春物の新作や卒業式などオケーション用の衣料品の売上げが好調だったほか、インバウンドは、真珠など高級ブランドの商品がよく売れた。福袋では、婦人雑貨や高級食器、海外旅行などの体験型のものが好評だった。また、食料品の催事の売上げも好調だった。（百貨店）
- ・旬の小松菜のほか、弁当や冷凍食品など手軽に食べられる商品の売上げが好調だった。一方で、価格の高止まりが続く乳製品は、売上げは前年を上回ったものの、買上点数は前年を下回り、値下げをしない限り回復は見込めない。（スーパー）
- ・インバウンドで賑わうニセコ地区や札幌近郊の店舗の売上げが好調だった。一方で、買上点数は、低価格帯の商品などでは前年を上回ったものの、嗜好品では買い控えが続いており、全体でも前年を下回る月が続いている。（コンビニエンスストア）

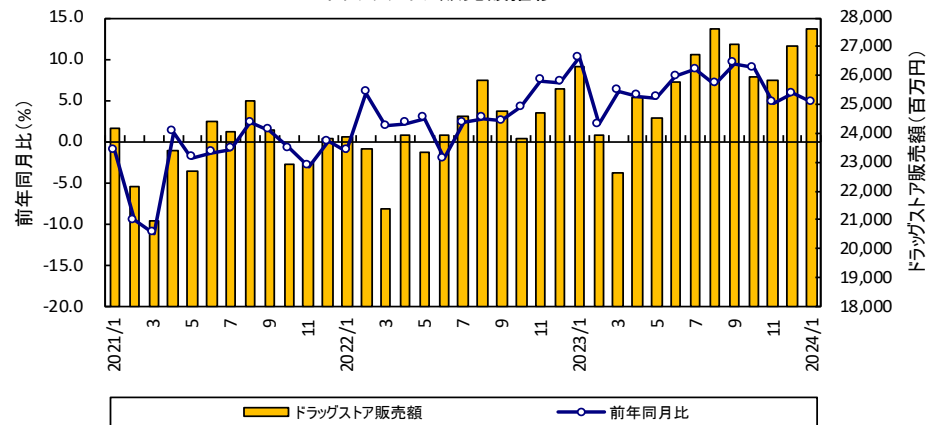
- ・家電大型専門店は、同▲6.4%と7か月ぶりに前年を下回った。ドラッグストアは、同+4.8%と19か月連続で前年を上回った。ホームセンターは、同▲2.7%と2か月連続で前年を下回った。
- ・新車販売は、同▲11.6%と6か月ぶりに前年を下回った。

家電大型専門店販売額推移



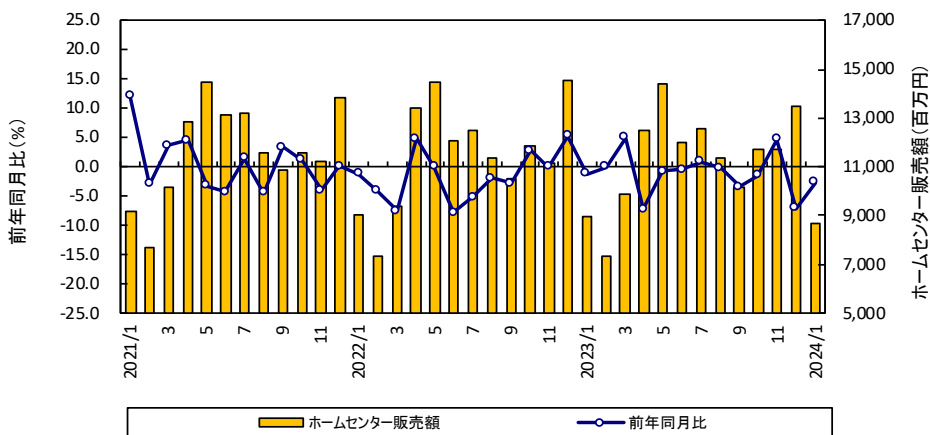
(資料：北海道経済産業局)

ドラッグストア販売額推移



(資料：北海道経済産業局)

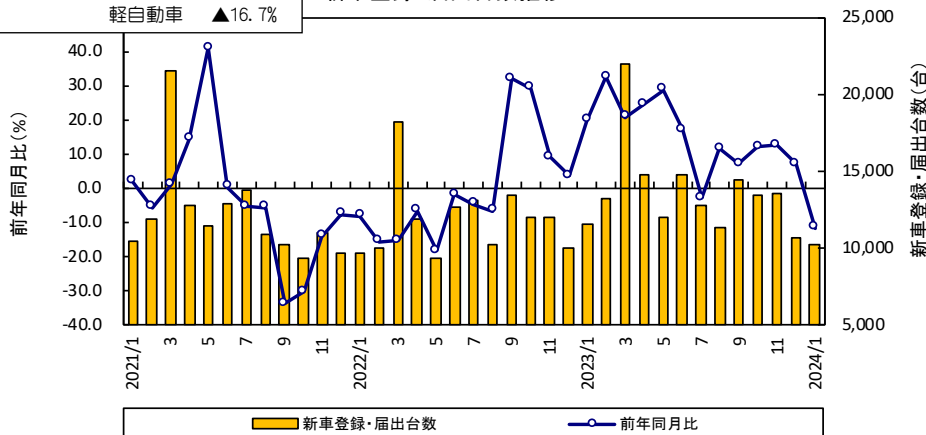
ホームセンター販売額推移



(資料：北海道経済産業局)

<1月> 普通乗用車 ▲13.2%
小型乗用車 ▲0.7%
軽自動車 ▲16.7%

新車登録・届出台数推移



(資料：(一社)日本自動車販売協会連合会、(一社)全国軽自動車協会連合会)

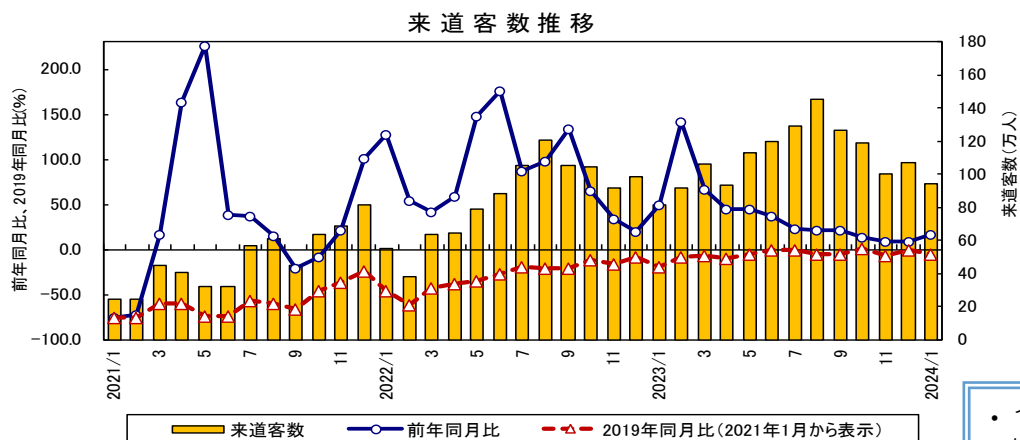
【ヒアリング内容】

- ・来夏も見据えた購入が続くエアコンのほか、スマートフォンが売上げを牽引する月が続いている。一方で、暖冬の影響でファンヒーターや石油ストーブなど暖房機器が伸び悩んだほか、昨年1月に買い換えのピークを迎えた反動からパソコンの売上げが前年を大きく下回った。(家電大型専門店)
- ・中国の個人客が増加し、化粧品の売上げが伸長した。一方で、暖冬の影響でカイロなど季節商品の売上げは前年を下回った。(ドラッグストア)
- ・値上げによる買い控えに加え、暖冬の影響により暖房機器や除雪用品など季節商品が伸び悩み、売上げが前年を下回った。また、節約志向からペットフードでも割安な大容量の商品が売れる傾向が見られた。(ホームセンター)

観光 ～ 改善している ～

1月の来道客数は、前年同月比+15.8%（2019年同月比▲5.9%）と27か月連続で前年を上回った。また、道内外国人入国者数は、同+55.7%と19か月連続で前年を上回った。

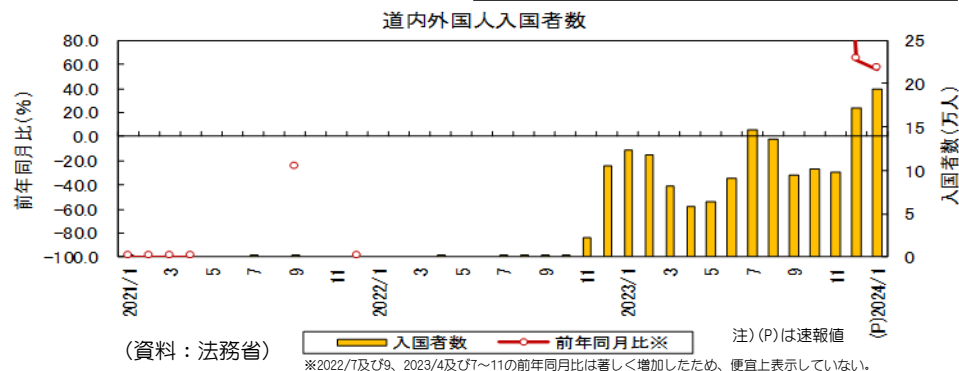
< 1月 > 入国者数 192,772人(+55.7%)



< 1月 > 来道客数 944,464人(+15.8%)

※北海道外から航空機（国内線）、JR（北海道新幹線）、フェリーを利用して来道した旅客数。
※道内で入国手続きを行った外国人数は含まない。

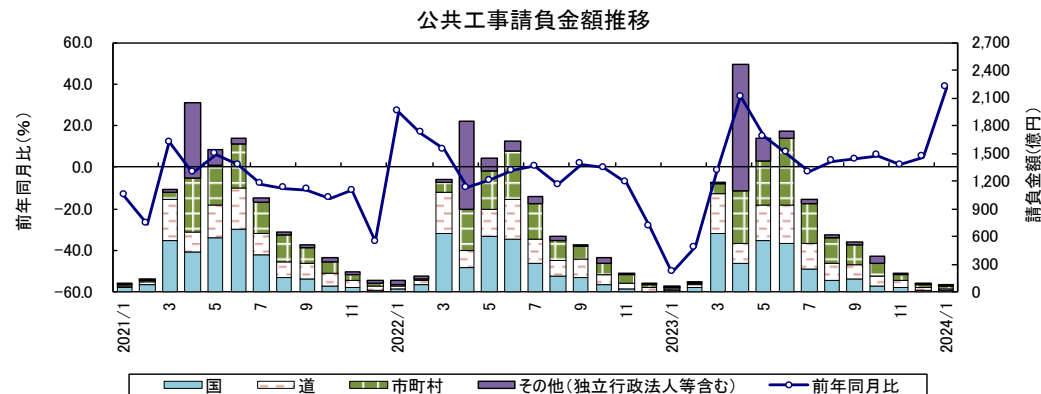
(資料：(公社)北海道観光振興機構)



- 1月は、主要観光施設の集客数が軒並み前年を上回った。また、今年は冬の観光を目的とした季節定期便の就航もあったことから、台湾や韓国に続き香港からの外国人観光客も多く、インバウンドの入込みは前年に比べ増加した。(観光協会)
- 2月は、国内客やインバウンドともに団体ツアーが多かったため、客室稼働率も前年に比べ好調だった。コロナ禍前にみられた春節時期の中国人団体ツアーはみられず、高所得者層とみられる個人客が多かった。(宿泊業)

公共工事 ～ 増加した ～

1月の公共工事請負金額は、道は前年を下回ったが、国、市町村は前年を上回り、前年同月比+38.4%と6か月連続で前年を上回った。



< 1月 >

北海道 +38.4%

(内訳)

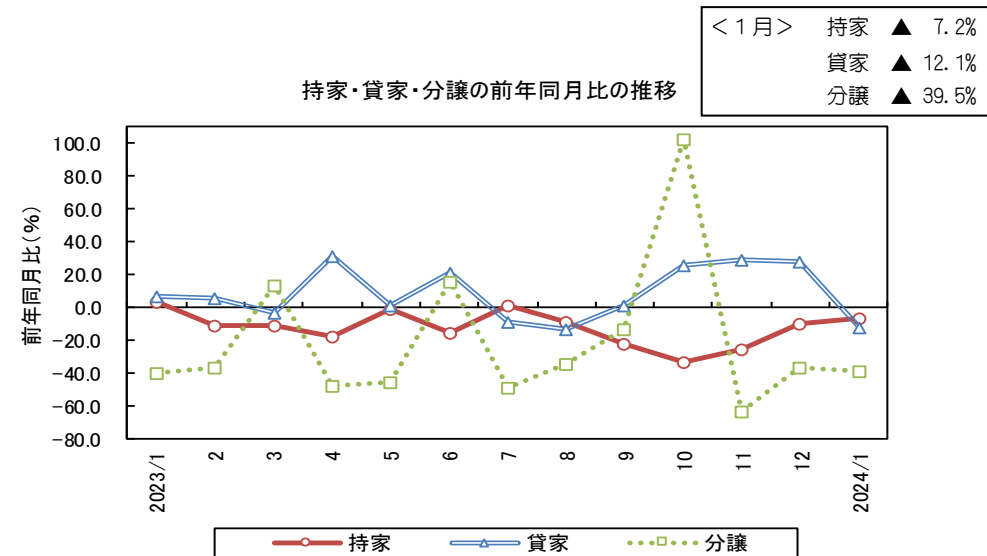
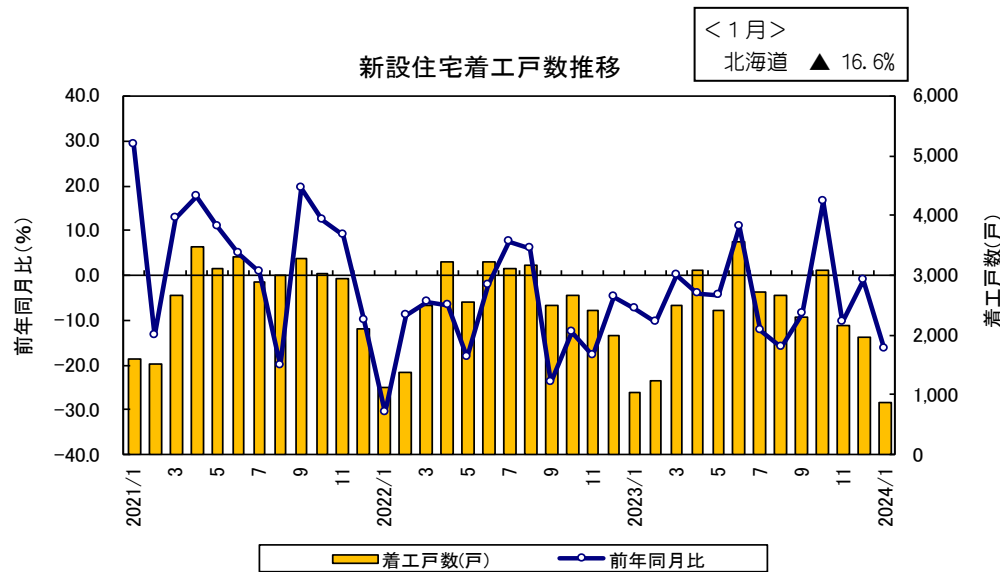
国 +37.5% 道 ▲45.5% 市町村 +37.5% その他 +393.4%

(請負金額は国、道、市町村、独立行政法人等の合計額)

(資料：北海道建設業信用保証(株)ほか2社)

住宅建設 ～ 弱い動きとなっている ～

1月の新設住宅着工戸数は、持家、貸家、分譲全てで前年を下回り、前年同月比▲16.6%と3か月連続で前年を下回った。



(資料：国土交通省)

民間設備投資 ～ 増加している ～

2023年度の設備投資計画は、全体で前年度比+2.6%と2年連続で前年度を上回った。

日銀短観の設備投資動向

2023年12月13日発表

	2022年度	2023年度
北海道	+ 11.3%	+ 2.6%
製造業	+ 25.6%	+ 32.9%
非製造業	+ 6.8%	▲ 8.4%
全国	+ 9.2%	+ 12.8%

注) 土地投資額を含み、ソフトウェア投資額、研究開発投資額を除く。

注) 北海道は、電気・ガスを除くベース。

(資料：日本銀行札幌支店)

法人企業景気予測調査(北海道・設備投資)

2023年12月11日発表

	2022年度	2023年度
全産業	+ 26.0%	▲ 9.4%
製造業	+ 34.7%	+ 15.5%
非製造業	+ 24.0%	▲ 15.8%

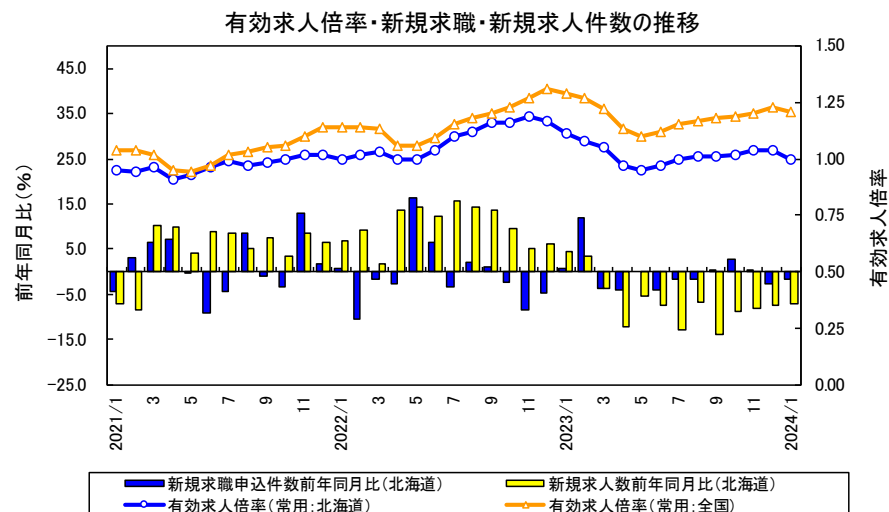
※数値は対前年比増減率。

注) ソフトウェア投資額を含み、土地購入額を除く。

(資料：北海道財務局)

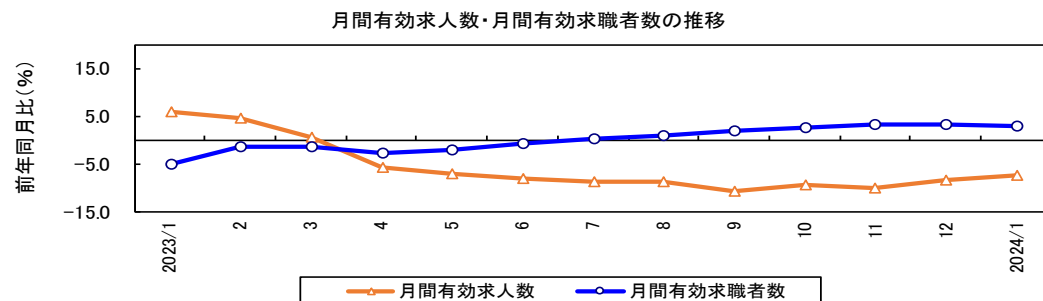
雇用動向 ～ 弱含んでいる ～

1月の有効求人倍率は、1.00倍と前年同月差0.11ポイント低下し、10か月連続で前年を下回った。



< 1月 >			
北海道	有効求人倍率(常用)	1.00倍	
	新規求職人数(前年同月比)	▲ 7.0%	
	新規求職申込件数(前年同月比)	▲ 1.6%	
	有効求人倍率(常用)	1.21倍	
全 国			

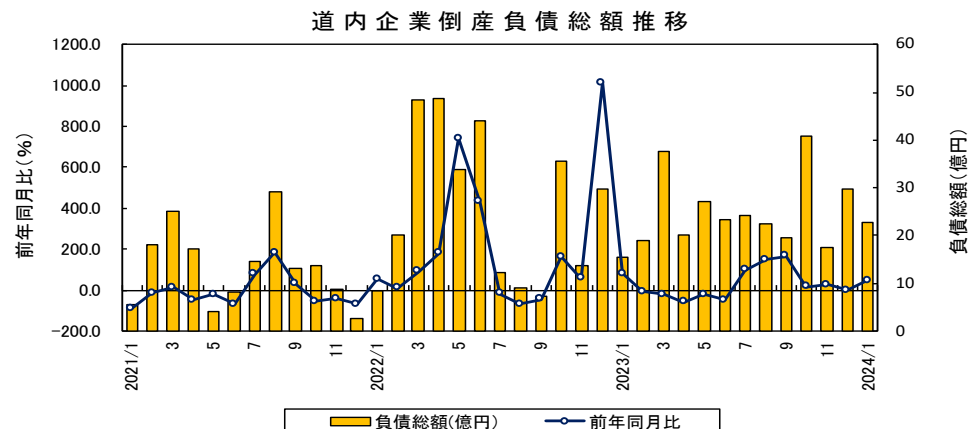
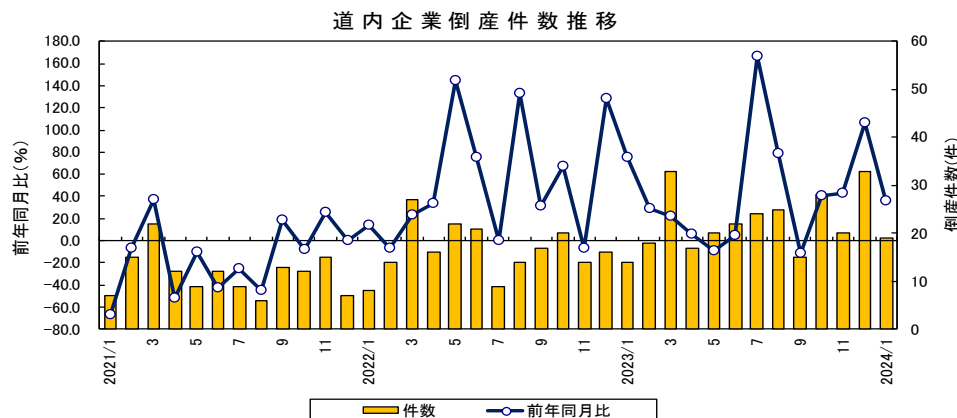
< 1月 >			
月間有効求職人数(前年同月比)	▲ 7.2%		
	月間有効求職者数(前年同月比)	+ 2.9%	



(資料：厚生労働省、北海道労働局)

企業倒産 ～ 件数、負債総額とも増加した ～

1月の倒産件数は19件で、前年同月比+35.7%（5件増）と4か月連続で前年を上回った。また、負債総額は22.6億円で、同+45.7%と7か月連続で前年を上回った。



(資料：(株)東京商工リサーチ)